

奄美の風だよ

発行・編集：奄美自然体験活動推進協議会

NO. 14

(秋号： 4)

2003. 10. 1

A N C : News Letter



【サイヨウシャジン】 嶺山公園近く H15,9月撮影

厳しかった残暑も先月下旬ごろからは和らぎ秋の気配が漂ってきました。日中はまだ暑い日がありますが、朝夕はすいぶんとしのぎやすくなってきました。

毎日聞こえていた夏鳥たちの鳴き声はいつしか聞かれなくなって、冬鳥の鳴き声や姿が見られるようになりました。山を見渡しますと、特に目立った花木は見当らず緑一色といった光景ですが、道路沿いには小さな草花たちが咲き始めています。特にシロノセンダングサが多く目につきますが、かわいらしいハギの花はいっそう秋らしさを感じさせます。嶺山公園近く（大和村）の道路沿いにはスズランに似た薄紫色のサイヨウシャジンの花が咲いている一角がありましたのでカメラにおさめました。草花ばかりでなく海岸近くに咲くハマビワなどの花木も今が旬といった感じです。また、「実りの秋」らしく実をつけている植物もたくさん見られる季節です。初夏に花を咲かせるセンダンの木は車道上まで伸びた枝に薄黄緑色の実をたくさんつけていますし、シャリンバイも赤茶色の実をつけています。

こちよい風をうけて初秋の自然観察へ出かけてみてはいかがでしょうか。

協議会活動報告

クラフト教室「ペットボトルでリサイクル工作をしよう」

場 所：奄美野生生物保護センター（多目的会議室）

日 時：7月23日（水）午後1：30～5：00

今年も夏休みに自然ふれあい行事としてクラフト教室2回と自然観察会を3回7月、8月に行いました。

夏休み早々の7月23日にはセンターの多目的会議室でクラフト教室「ペットボトルでリサイクル工作をしよう」を行ないました。

日頃はリサイクルゴミとして収集日に出されているペットボトルを使っていろいろな形のものを作って見ようと企画したものです。最初は何を作ろうかと考えていたようですが、工作の本を参考にしてオリジナル作品を次々と作りはじめていきました。まずペットボトルをカッターやハサミを使って切ってから、紙粘土や、ビニールテープ、接着剤などを使って形を作っていきます。形が出来た物にアクリル絵の具で色を塗って完成させていました。モビールをつくるのはちょっと時間がかかっていましたが、一人で2、3個作れたようでした。中には手を休めることなく5、6個作った子供さんもいました。作品には花瓶、グラス、CDラック等々がありました。参加した親子さんからは「工作も久々で楽しかった」「いろいろ作れておもしろかった」といった感想が聞かれました。

リサイクルごみとして出すだけでなく、工夫してさまざまな作品ができることを学べた楽しいクラフト教室だったようです。



自然観察会：「チョウの下敷きを使ってみよう！」

場 所：奄美フォレストポリス（大和村）

日 時：7月28日（月）午後1：30～4：30

講 師：森川義道先生

自然観察会の1回目は7月28日に奄美フォレストポリス（大和村）で行いました。

平成14年度の協議会活動で作成した「奄美のチョウ」の下敷きを使ってみようと企画しました。

始める前に森川先生のチョウやトンボの標本を見ながらの解説を聞いてから、水辺の周辺の観察を始めました。この日は晴天でしかも午後1時半からと一番暑い時間帯でしたが、子供達は元気に虫取り網をもって追いかけていました。チョウに近づくと網を振り回すのですが、最初はなかなかうまく入ってくれません。やっと捕まえたチョウやトンボについて、森川先生が一匹ずつ名前やオスとメスの違いなど詳しく説明してくださいました。公園内は村の条例で野生生物保護地区に指定されているので捕獲することは禁止されていますが、申請書を提出して許可を得ていたので採取することができました。捕まえた昆虫は説明を聞いてからその場で自然へ返してあげました。カラスアゲハやルリタテハ、ツマグロヒョウモンなど下敷きに載っているものから、載っていない希少種のスミナガシ（オス）やオキナワチョウトンボが観察でき、有意義な観察会でした。

子供たちは大きなイタジイの木で鳴いているセミを捕まえて、自慢そうに眺めていました。観察の合間には公園内の木陰でネイチャーゲームなどして楽しい時間を過ごしました。

参加した親子さんからは「珍しいチョウやトンボが実際に見れて感激です」「奄美の自然を見直すことができました」「チョウの名前を全部覚えたい」など嬉しい感想が聞かれました。

チョウの観察時に「奄美のチョウ」の下敷きを活用してもらえればと思っています。

「自然観察会」



クラフト教室「葉っぱのスケルトンしおりを作ってみよう！」

場 所：奄美野生生物保護センター（多目的会議室）

日 時：8月6日（水）午後1：00～5：00

クラフト教室2回目は「葉っぱのスケルトンしおりを作ってみよう」をセンターの多目的会議室で行いました。シャリンバイの葉っぱで作ることになり、センター周辺のシャリンバイの葉っぱを集めてから作業を始めました。

作り方は①水洗いして汚れを落とした葉っぱを薬品（10%水酸化ナトリウム水溶液）を入れたビーカーに入れて10分ぐらい煮ます。

②水洗いをしてから使用済みのハブラシでたたいて葉肉を取り除き葉脈だけを残します。

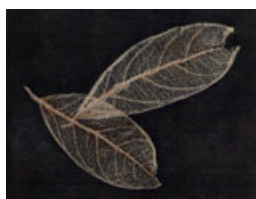
③葉脈だけ残ったものを水で洗い流し、漂白剤を入れたコップにしばらくつけておきます。

④水洗いしてから乾かした葉脈を赤色や黒色、青色の紙の上にのせてパウチをします。

①ハサミで形を切りひもをつけて完成です。

手際よく出来た子供さんもいましたが、中にはハブラシで強く擦りすぎたために新しい葉っぱでもう一度やり直すこともありました。また、パウチの調子が途中で悪くなった為にやり直す子供さんも何人かいました。しおり作りにはすべての葉っぱがうまくいくとは限らず、うまくいかない葉っぱもありました。参加した子供さんからは「歯ブラシで擦るのがおもしろかった」「もっといろいろな葉で試してみたかった」などの感想が聞かれました。普段はなかなかできないことができて楽しかったようです。

この手順を覚えていろいろな葉っぱで試してみたいかがででしょうか。このとき水酸化ナトリウムの取り扱い、子供たちだけでは危険ですので、親か先生が見ていてあげてください。



「クラフト教室」



自然観察会：『夏の山道を歩いてみよう！』

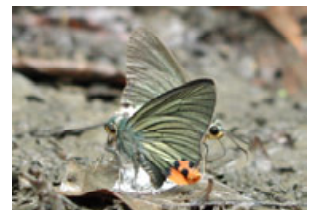
場 所：林道第一由井岳線（瀬戸内町）

日 時：8月4日（月） 午前7：00～10：00

講 師：鳥飼久裕先生

自然観察会の2回目は瀬戸内町の油井岳林道で行いました。野鳥観察は早朝の方がよいということで油井岳集合が午前7時と早い時間になりました。油井岳に着くとすぐ近くの林内からアカショウビンのさえずりが盛んに響いていました。林道の散策を始めると林内から聞こえてくる鳥や昆虫について鳥飼さんが説明をしてくださいました。ルリカケスやサンショウクイ、ヤマガラ、シジュウカラなどの鳴き声が聞こえ、路上ではアオバセセリ、リュウキュウハグロトンボなどが観察できました。道路脇から急に飛び出したアマミヤマシギの姿にはちょっと驚かされました。なかなか体験できない早朝の貴重な観察会でした。

「自然観察会」



自然観察会『夏の星座と火星を観察しよう！』

場 所：奄美野生生物保護センター前広場

日 時：8月27日（水）午後7：30～9：30

講 師：川口和範先生

夏のふれあい行事の最後はセンター前の広場で「夏の星座と火星を観察しよう」を行いました。この日は6万年に一度とも言われる火星が地球に最接近するという日でした。火星が観測されるまでの間、講師の川口さんがスライドを使って夏の星座（夏の大三角形、ことざの神話、さそり座について）や火星について解説をしてくださいました。全員で夜空を見上げて夏の大三角形や天の川、北斗七星などを見つけました。

しばらくして強い光を放つ火星が現れると、広場に置いた望遠鏡を一人ずつ順番で覗いていきました。肉眼で見るのと違ってずいぶん大きく見えました。火星は大きさが地球の約半分、公転方向が一緒、大気の大部分が二酸化炭素で極のほうに白く見えるのが氷だそうです。参加者は「星座の話がわかりやすくてよかった」

「火星が見られて貴重な体験ができました」などと感想を話されました。

「自然観察会」



新聞記事

地域紹介

瀬戸内町

瀬戸内町は、奄美大島本島の南西端部に位置し、本島側と加計呂麻島・請島・与路島の3島からなっております。大島海峡を中心に、東に太平洋、西に東シナ海に囲まれるようにして立地し、世界でも希有の美しい海底を誇り、色とりどりのサンゴ礁や目のさめるような熱帯魚を数多く見ることができます。海岸線は、リアス式海岸を形成し天然の良港として、また戦時中は軍港として利用されておりました。現在でも、台風時の避難港として、又、養殖業等に利用されております。

瀬戸内町の散策コースとして、油井岳展望台はいかがでしょう。油井岳には様々な動植物が生息しております。哺乳類・鳥類・両生類・昆虫類・シダ植物・裸子植物・被子植物等多種多様の動植物を散策し、展望台で大島海峡を眺めながらのんびりと秋の日の一日を過ごしてみてはいかがでしょうか。



油井岳展望台から見た大島海峡



カラスバト



トゲネズミ



油井岳散策コース

★★★ このコースで見られる主な野生生物 ★★★			
モリヘゴ	ウラジロ	ワラビ	
リュウキュウマツ	アマミエビネ	ウラジロガシ	
ケナガネズミ	アマミノクロウサギ	アマミアオガエル	
ルリカケス	オーストンオオアカゲラ	アカヒゲ	

上記の動植物は一例です。その他にも数え切れないほど野生生物が生息しております。一度、散策してみteはいかがでしょうか。

身近な生きもの情報

野生の生きもの観察日記

『秋の自然日記：干潟を巡って』

例年通り暑かった奄美の夏も、台風の到来と共に少しずつですが涼しさを増してきました。生き物の世界でも、夏鳥のアカショウビンやサンコウチョウの声がほとんどなくなり、代わってアカハラダカの渡りが観察されるようになりました。秋は確実に訪れているようです。

今回はちょうど渡りのシーズンということで、渡り鳥が多く観察される場所、干潟についてお話ししたいと思います。取り上げる干潟は、この夏に訪れる機会のあった沖縄県の漫湖、福岡県の和白干潟、そして奄美の大瀬海岸です。これら3つの干潟は代表的な渡り鳥の中継地として全国に知られています。

漫湖は那覇市と豊見城市の境界付近、国場川と饒波川の合流地点に広がる泥の干潟です。河口付近の干潟は潮の干満によって劇的に景観が変わるのですが、この漫湖も干潮時には広大な干潟が広がり、大都市（那覇）に近いにもかかわらず、多くの鳥達が訪れて羽を休めています。この場所は99年5月にラムサール条約（「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」）に登録され、さらに今年5月には『漫湖水鳥湿地センター』が開所し、誰でも気軽に干潟の観察ができる設備が整えられています。



和白干潟は博多湾の東奥にある、漫湖と同じく泥質の干潟です。この干潟は私が鳥を見始めたころ、よく観察に行った場所でした。漫湖同様に大都市（博多）に近い場所で数多くの渡り鳥が観察でき、渡りのシーズンには多くのバードウォッチャーで賑わっていました。しかし、現在は沖合に建設中の人工島の影響なのか、やって来る鳥は激減したとされています。9月に訪れた時も観察ルートには人が入っていないからか雑草が生い茂り、少し寂しい雰囲気になっていました。



奄美の大瀬海岸は外洋に面し、干潟はサンゴ礁の海岸でできていて、広大な泥干潟という景観ではありません。上の2つとは少し様子が異なる干潟です。しかし、大瀬は奄美有数の渡り鳥スポットです。また、漫湖同様に琉球列島にある干潟なので、思わぬ迷鳥が観察されることもあります。



シギやチドリの仲間のように、北米・ロシアと東南アジア・オセアニアを行き来する渡り鳥にとって、これらの干潟は大切な中継地です。もしかしたら、大瀬海岸で観察された鳥が、漫湖や和白干潟で観察されることもあるかもしれないのです。しかし、もしどれか干潟が一つでも欠けてしまったら、休憩場所を失った渡り鳥たちはどうなってしまうでしょう？国内で数多くの湿地が消滅の危機にあります。干潟には鳥以外にも、カニや貝など小さな生き物がたくさんいます。まずは身近な干潟に出てみませんか？

※漫湖写真提供；漫湖水鳥湿地センター 宮城靖子氏 （センター中村）

情報マップ 地図

秋にみられる野生生物

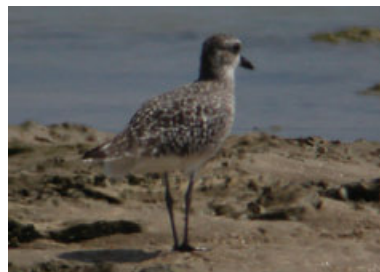
※参考文献：図鑑奄美の野鳥・山溪フィールドブックス

「ダイゼン」チドリ目 チドリ科

ハト大の大形チドリの仲間。同じ仲間のムナグロと同じ羽色パターンで夏、冬変化する。体の上面は銀灰色に黒色の模様がある。くちばしと足は黒色、足指4本。夏羽では頭が白く、顔から胸、腹と黒くなりそのコントラストがとても鮮やか。冬羽では下面の黒が消え頭から胸に黒褐色の縦斑がでる。ゴカイを砂から引きずり出してよく食べている。春と秋の渡りに、干潟、海岸、河口で見られる。奄美ではムナグロよりすくないが越冬している。

鳴き声：ピューウィー ピューウィー

生息時期：8月～12月～4月

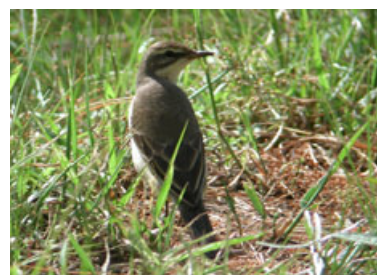


「ツメナガセキレイ」スズメ目セキレイ科

キセキレイに似ているが、尾が短めで足が少し長く後指の爪が長い。夏羽では背が灰緑色で下面は黄色である。冬羽は頭や背が灰褐色で、下面は淡い灰褐色になる。くちばしや足は黒色。本種には多くの亜種がある。夏羽冬羽とも眉斑が黄色の亜種キマユツメナガセキレイ夏羽で眉斑が白色の亜種マミジロツメナガセキレイ、夏羽で眉斑がなく頭部が灰黒色の亜種キタツメナガセキレイ、夏羽で白く小さい眉斑のある亜種シベリアツメナガセキレイなどがある。主に旅鳥として、琉球列島や九州を通過していて、農耕地や川岸などで見られる。奄美でも春秋の渡りの時期に渡来するが、越冬する場合もある。

鳴き声：ジィ、ジィ、ジィ、など

記録時期：3月～5月、9月、10月



「センダン」センダン科

分布：四国、九州、沖縄、小笠原

果実は薬、樹皮は駆虫剤、材は器具や建築に使われる有用樹。万葉の昔から古名のオウチで親しまれている。沿海の山野に生える落葉高木。高さは10m以上になる。ひとつひとつの花は小さいが、びっしりと咲くので、花期には木全体が薄紫色に見える。花びらは5枚か6枚あり、花が咲くと色がやや淡くなる。果実は黄色く熟す。花期：4～6月



お知らせ

◆ 第4回「やせいのいきもの絵画展」の出展作品募集について * テーマは『私が好きな奄美の風景』

奄美の自然やいきものたちに興味や関心を持ってもらおうと始めた「やせいのいきもの絵画展」も今回で4回目となり、今年も奄美野生生物保護センターと共催で開催します。

今回の絵画展のテーマは「私が好きな奄美の風景」です。

つきましては、第4回「やせいのいきもの絵画展」出展作品を下記の要項で募集いたします。

【募集内容】

締め切り：平成15年11月28日（金）

テーマ：「私の好きな奄美の風景」

用紙サイズ：画洋紙 B4サイズ

パステル、水彩絵の具、油絵等
種類は問いません。

応募資格：小・中・高校生

（小学校3年生までを低学年とする。）

入選者発表：平成15年12月上旬予定

（本人へ直接通知します。）



【賞】

いきもの大賞：低学年の部、高学年の部（各1名）

あざやか賞：低学年の部、高学年の部（各2名）

ユニーク賞：低学年の部、高学年の部（各2名）

審査員特別賞：学年を問わず（2名）

※以上、入選者には賞状と副賞を贈呈します。

応募作品は展示終了後郵送でお返しします。

【送り先】

〒894-3104

大島郡大和村思勝字腰ノ畑551番地

奄美野生生物保護センター・奄美自然体験推進協議会宛

【絵画展開催予定】平成15年12月7日（日）～平成16年2月1日（日）

編集後記

ようやく秋らしくなってきました。センター近くでは冬鳥のアオサギやサシバが舞っているのが見られるようになりました。近くの小・中学校では運動会の練習をしているのが事務所から見えます。秋の季節を感じさせる光景です。

編集・発行：奄美自然体験活動推進協議会事務局

☐ 〒894-3192

鹿児島県大島郡大和村大和浜100

大和村役場 企画財政課

TEL：0997-57-2111

☐ （連絡・書類等送付先）

〒894-3104

鹿児島県大島郡大和村思勝字腰ノ畑551

奄美野生生物保護センター内

TEL：0997-55-8620

FAX：0997-55-8621

